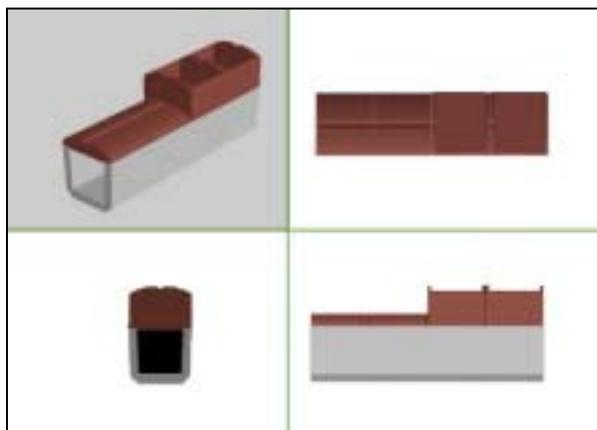


## やきものによる街づくり



常滑は信楽、備前、丹波、越前、瀬戸と並んで中世六古窯のひとつとして有名で、現在でもやきもの産業が盛んです。古い煙突や黒い板壁の工場が残り、陶業の地らしい情緒を満喫できます。「やきもの散歩道」はその代表的な人気スポットです。常滑市の観光施設利用者統計によると、平成3年からの10年間に約8割も増えており、さらに平成17年には国際空港も開港することから来訪者の大幅な増加が見込まれています。こうした来訪者に対して常滑焼のイメージアップを図るため、やきものによる市街地の景観向上を目指しました。

来訪者の増加は必然的に店舗などの商業・サービス施設が増えることとなります。平成13年度はこうした店舗を演出するため、やきもので看板を作り「土(ど)かんぱん」と名付けて提案をしました。看板は店の顔ともいべき性格をもち、目立つ位置に設置されるからです。14年度ではより公共性の高い舗道を対象としたやきものをデザインしました。ここで紹介する4点はいずれも舗道を構成するアイテムです。ひとつはU字溝用の蓋で、通常は愛想のないコンクリート製かグレーチングがほとんどです。舗装はレンガなどの素材が多く用いられるようになってきていますので蓋にも気を使いたいものです。U字溝は全国的に普及していますから、可能性のある分野ではないでしょうか。2番目は舗道には欠かせない街路樹の根元を保護し、美観を向上するツリーサークルです。現在市場にある製品のほとんどは鋳鉄製ですが、やきもの製はナチュラルな風合いを持ち、プランターなど周辺小物などのバリエーションの構成も可能ですから多様な商品展開ができます。下の写真2点はマンホールの蓋です。深さのある皿状の鋳鉄製蓋に、常滑をイメージする赤茶色の陶製プレートを嵌め込んだものです。景観上マンホールの蓋は目立たないのがベターかもしれませんがこんなマンホールがあると地域性を強くアピールできます。



常滑窯業技術センター 水野 潤

研究テーマ：新趣向素材の開発とデザイン開発

指導分野：陶磁器デザイン